# 「地域の姿が見えるように」

## ～「知床学」を通して，ふるさと「羅臼」の姿を～

学校名　羅臼町立羅臼小学校
校長名　河原　宣孝
担当者　水口　拓真

### １　本校の ESD 特徴

「時代の変化に適応できるよう，個性を磨きながら人間性を豊かにしてく児童を育てる」をテーマに本校は教育活動を実践している。

その課題達成のために主として「総合的な学習の時間」において「知床学」を位置づけ，児童が地域の自然や環境に関心をもち，主体的な追究活動を通してよりよく問題を解決する資質や能力を育てていきたい。そして，学びを通して，地域の誇りや課題といった，リアルなふるさと「羅臼」の姿を捉えていけるようにしたい。

そのために教育課程上に位置付けた本校の総合的な学習の時間の全体像（「知床学」を含む）が以下である。

### ２　教育課程への位置づけ

| | 取り上げる課題 | | | |
|---|---|---|---|---|
| ふるさと | 地域学習（ユネスコスクールと関連） | ・ 子どもの実態に合わせてテーマを設定し、教科で培った力を生かしながら自分なりの課題に対して主体的に追究し、解決する力を養う。 | ３　年 | 自然・郷土①　熊学習・ビジター センター・羅臼の生き物など。<br>羅臼展望塔の見学・北方領土関係の絵本 |
| | キャリア教育（生き方教育） | ・ 地域の自然環境や社会環境に積極的に関わりながら、地域の良さや尊さに気づき、自分なりにまとめたり発信する活動を通して、将来の夢や希望を持つ。 | ４　年 | 自然・郷土②　羅臼の自然環境・羅臼の歴史などを知ろう。<br>北方領土について知ろう(副読本)・語り部 |
| | 北方領土学習 | ・北方領土について、関心を持って学んでいく姿勢を育てる。<br>・施設見学を行ったり、四島出身の方のお話しを聞くことによって北方領土について学び、北方領土についての自分なりの考えを持とうとする態度を養う。 | ５　年 | キャリア教育と伝統文化<br>北方少年少女塾に参加 |
| | | | ６　年 | キャリア教育と伝統文化<br>羅臼展望塔の見学。インターネットで調べよう。 |
| 福祉 | ボランティア | ・ 自分たちの生活環境に関心をもち、身近な人々や障がいをもつ人々について考え、自分にできるボランティアを計画・実践する力を養う。 | ３　年 | 親切の心を考えよう(アイマスク体験・高齢者疑似体験など) |
| | | | ４　年 | お年寄りとふれ合おう(施設訪問) |
| | | | ５　年 | 幼稚園の子とのふれあい(幼稚園訪問準備) |
| | | | ６　年 | バリアフリーや親切の心を考えよう(車椅子体験・高齢者疑似体験) |
| 国際 | 国際理解・英語活動 | ・異文化への理解を深めるとともに、日本の文化や伝統に対する自信と誇りを持ち、平和に共生しようとする態度や英語活動を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろう[illegible]態度を育てる。 | ３　年 | 英語で遊ぼう。外国を知ろう。 |
| | | | ４　年 | 英語で遊ぼう。外国を知ろう。 |

本校の「総合的な学習の時間」は主に（１）ふるさと（知床学含む），（２）福祉，（３）国際の 3 分野で構成されており，各学年で児童の実態応じて実践している。

「知床学」をより具現化したものが以下の表である。

| | | | |
|---|---|---|---|
| ふるさと | 地域学習（ユネスコスクールと関連） | ３　年 | 自然・郷土①　熊学習・ワシ学習・羅臼の生き物。<br>北方領土学習①　羅臼展望塔の見学・北方領土関係の絵本 |
| | キャリア教育（生き方教育） | ４　年 | 自然・郷土②　外来種学習（ハチ学習）・羅臼の自然環境/歴史<br>北方領土学習②　北方領土について知ろう(副読本)・語り部 |
| | 北方領土学習 | ５　年 | 自然・郷土③　熊学習②　羅臼昆布学習<br>キャリア教育と伝統文化①　知床いぶき樽<br>北方領土学習③　北方少年少女塾に参加 |
| | | ６　年 | キャリア教育と伝統文化②　プロフェッショナル仕事の流儀in羅臼<br>北方領土学習④　領土の歴史(※社会科と横断しながら) |

## ３　活動事例

### （１）熊学習

ふるさと羅臼では，クマを巡ってどのような問題が起きてきたのか。また，現在どのような課題があるのか。ヒグマとの付き合い方や出会ったときにどうふるまえばよいのか…。人とクマの暮らしが隣り合わせという羅臼町の現状を，知床財団に協力いただき，写真や映像，模型などを活用しながら学んでいった。触れる/考える/知るといった学習活動を 3 年生時と 5 年生時に発達段階に応じた総合的なプログラムで展開している。なお，今年度の「羅臼町ユネスコスクール発表会」にて，5 年生がクマ学習の内容をクイズにまとめて発表する予定である。

### （２）羅臼昆布学習

「羅臼昆布はなぜ価値が高く値段も高いのか？」を，単元を貫く中心課題として学習を展開した。
昆布の長さや大きさを模型で体感し，食べてみる/触れてみることから課題を追究していった。羅臼漁協組合に協力いただき，昆布漁師である井田さんをゲストティーチャーに迎えた。本物に触れる貴重な体験と長年漁に携わってきた最前線の声を聞くことができた。

### （３）外来種学習（ハチ学習）

セイヨウオオマルハナバチについて，その見分け方や特徴などを，金澤主幹をゲストティーチャーに迎えて学んでいった。外来種の侵入（過去）とこれからどう付き合っていくか（未来）についても児童たちと考えた。

## ４　成果と課題

成果としては知床財団や漁協との連携，地域に根ざした職業に携わる方々をゲストティーチャーに招くことにより，専門的な話や資料に触れることができたり，リアルな地域の姿を見る/知る/体感することができたりしたことである。実体験を通した体験的な学びは児童の興味関心を高めて“地域に目を向ける/向けてみたくなる”上で重要な要素である。

一方，課題としては今後教員の移動などで授業のクオリティを落とさずに，“誰でも”一定水準の内容を保証できるような授業トータルパッケージとしての教材の引き継ぎや共有化が必要になってくることだろう。

変わっていくものと変わらずにあるもの。ことさら自然環境やそこに暮らす人々の営みはその両方を常に内包している。それに対応するように，授業もまた開発や精選が必要になるだろう。